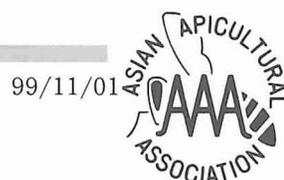


アジア養蜂研究協会 書籍販売のご案内



99/11/01

最新刊

「ニホンミツバチの飼育と生態」

吉田忠晴 著 (2000) 玉川大学出版部: 定価
[カタログ番号 Y200] ①

日本各地のニホンミツバチの伝統的飼養法と採蜜, 東南アジア各地のトウヨウミツバチ飼育法, 近代的な可動巣枠式巣箱によるニホンミツバチの飼養法と採蜜など「ミツバチ科学」連載記事をまとめた前著に一部加筆した。さらに付録として, セイヨウミツバチの飼育法が初心者向けに多数の写真と共に解説されている。蜂具類購入案内もあり, ミツバチ飼育に関心を持つ多くのホビービーキーパー必携の一冊。

2000年1月発売予定

Asian Bees and Beekeeping: Proceedings of Fourth Asian Apicultural Association International Conference, Kathmandu, 1998.

M. Matsuka, L.R. Verma, S. Wongsiri, K.K. Shrestha, U. Partap 編 (英文), ISBN1-57808-084-3
264 pages, US\$47.50 [カタログ番号 M400] ②

1998年3月ネパールで開かれたAAA第4回大会の論文集。大会決議, ワークショップの提言, アジア養蜂研究協会各国代表によるカントリーレポートなどを盛り込み, アジアのミツバチと養蜂の現状をまとめた第1章と, ミツバチ生物学, 養蜂技術, 生産物, 病害敵, ポリネーションなど発表論文を掲載する2章以下からなり, アジアの動きを広く世界へ発信する。

既刊から

「ニホンミツバチ

北限の *Apis cerana*」

佐々木正己著 (1999) p.192 海游舎: 定価税別
2,800円, 頒価 2,700円, 450g [カタログ番号 SS
200]

熱帯アジアのジャングルで身につけた「すばしこさ」と北国の冬を乗り切る「息の長さ」を合わせ持つニホンミツバチ。人々を魅了しつついまだ知られざる生態の不思議を, 著者自身の記録写真と, 最新の生物学的知見をふんだんに集め紹介する。

①



②

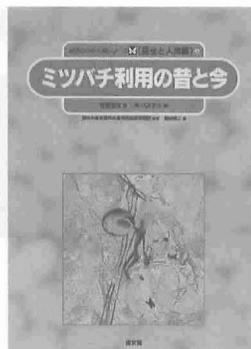


「ミツバチの知恵

ミツバチコロニーの社会生理学」

トーマス・D・シーラー著, 長野啓, 松香光夫訳
(1998) p.362 青土社: 定価 3200円 (+税 160) 頒
価 3,000円 560g [カタログ番号 S100]

社会性昆虫であるミツバチのコロニー採餌行動を詳細に研究・分析し, コロニー内で機能する数多くの微妙な情報伝達のしくみを解き明かした。社会生理学の黎明を告げる書。玉川大学におけるミツバチ研究50周年を記念し, 著者コーネル大学教授シーラー博士を招聘, 2000年1月のミツバチ科学研究会で, 記念講演が行われる。



「ミツバチ利用の昔と今」

自然の中の人間シリーズ「昆虫と人間編」③松香光夫著 (株) パステル絵 (1998) p. 32 農山漁文化協会：定価 2000 円 (+税 150) 頒価 1,900 円 530 g [カタログ番号 M200]

ミツバチの巣のロウがフロッピーディスクに、社会性昆虫の代表、ミツバチのおもしろい生態からローヤルゼリー、プロポリス、花粉だんご、蜂ろうなどミツバチの生産物の利用。

「アジアの昆虫資源

資源化と生産物の利用」

国際農業研究叢書 松香光夫、栗林茂治、梅谷献二著 (1998) p. 191 農水省 国際農林水産業研究センター：定価 2100 円 (+税 105) 頒価 2,000 円 300 g [カタログ番号 M300]

アジア地域における有用昆虫資源を地域の植生条件との関連において考察し、その分布、機能の特性、有効利用の可能性を明らかにした。絹糸昆虫の生産と利用、熱帯とアジアにおける養蜂、昆虫産生物質の生産と利用、天敵昆虫の生産と利用、食用・薬用としての昆虫の利用など。

「蜂は職人・デザイナー」

奥本大三郎、吉田忠晴他著 (1998) p. 83 INAX 出版：定価 1800 円 (+税 90) 頒価 1,700 円 320 g [カタログ番号 IN100]

巣の造形に卓越した技とセンスを発揮するハチたちは、家造りの巧みな職人であり、デザイナーでもある。自在な造形デザインから建築技術、耐震構造、空調、増築まで、その比類ない職人ぶりを紹介する。六角形をつくるミツバチの建築技術 (吉田)、狩りバチたちの集合住宅 (松浦) ほか。

「日本動物大百科 ⑩ 昆虫Ⅲ」

日高敏隆 (監修) 大谷剛他 (編集) (1998) p. 187 平凡社：定価 3800 円 (+税 190) 頒価 3,800 円 1.3kg [カタログ番号 OH100]

高度な社会を進化させたハチ・アリの仲間 (膜翅目類) と、子供に人気のクワガタ、カミキリ、ホタル、テントウムシの仲間 (甲虫類) の生態。日本産全科の情報を掲載。

「特集・マルハナバチ」昆虫と自然

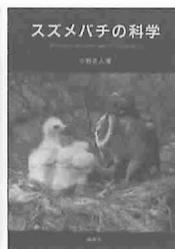
1998 年 5 月号 p. 36 ニューサイエンス社：定価 1300 円 (税込) 頒価 1,170 円 80 g [カタログ番号 ON300]

いまなぜマルハナバチか? (小野)、マルハナバチの生態的特徴 (松浦)、マルハナバチの産卵・育児習性 (片山)、マルハナバチの室内飼育法 (光畑・米田) マルハナバチの農業への利用 (浅田) 他。

「スズメバチの科学」

小野正人著 (1997) p. 174 海游舎：定価税別 2700 円、頒価 2,600 円 410g [カタログ番号 ON200]

日本に見られるスズメバチの全種について、その生態、巣の構造などを科学的に解説。227 枚のカラー写真と説明で明快に示す「カラー図版篇」と、最新の学術情報を満載した「解説篇」からなる。スズメバチ幼虫の唾液にヒントを得て開発されたスポーツドリンクの話題や、刺されないための方策と刺されたときの対策など、具体的に幅広くまとめられている。



「ニホンミツバチ誌」

岡田一次著 (1997) p. 86 玉川大学出版部：定価 2,500円, 510g [カタログ番号 OK200]

1990年発行の初版は数多くの貴重な知見と200枚以上の素晴らしい写真を含み、岡田先生の40年にわたるニホンミツバチ研究の集大成として歓迎された。1997年に先生の米寿を記念し玉川大学出版部から新装版が発行された。近年アジアでトウヨウミツバチ養蜂が再評価されており、ミツバチに対する内外の関心に応えるため、英文の説明が一部加えられている。

「マルハナバチ・ハンドブック—野山の花とのパートナーシップを知るために」

鷺谷いづみ, 小野正人ほか著 (1997) p. 49 文一総合出版：定価 1,200円, 100g [カタログ番号 W100]

マルハナバチの観察や「地域の生物多様性」の調査などに役立つミニガイド。種類ごとの生態写真、同定に役立つ特徴、野山の花とのパートナーシップをしめす図鑑篇、形態上の特徴から種を調べる検索表と分類、形態、生態、花との関係を示す解説篇からなる。

「ホントに効くのか!? プロポリス」

酒井哲夫著 (1996) p. 190 双葉社：定価 850円, 頒価 800円, 180g [カタログ番号 SK200]

インパクトの強いタイトルだがまじめな啓蒙書。プロポリスにはどんな効果があるのか、プロポリス再発見、プロポリスの何がどう効くのか、ミツバチにとってのプロポリス、プロポリスの見分け方、プロポリスの使用方法。

「マルハナバチの世界

—その生物学的基礎と応用—

小野正人・和田哲夫著 (1996) p. 132 日本植物防疫協会：定価 2,500円, 250g [カタログ番号 ON100]

トマトのポリネーターとして輸入されているマルハナバチの解説書。生物学(小野担当)とその利用(和田担当)にわけて、マルハナバチの自然史、研究史、世界のマルハナバチ事情、使い方から関連情報まで。

「ポリネーターの利用」

松香光夫著 (1996) p. 153 サイエンスハウス：定価 1800円, 頒価 1,600円, 205g [カタログ番号 M100]

ミツバチやその他のハナバチ類を中心に、農作物の豊かな実りをもたらす花粉媒介昆虫(ポリネーター)の素顔と働きを解説し、諸外国の現状を通して新しい利用法や問題点を述べる。

「養蜂の科学」

佐々木正己著 (1994) p. 159 サイエンスハウス：定価 1,800円, 頒価 1,600円, 180g [カタログ番号 SS100]

最近の昆虫機能利用、開発の動きを受け、有用昆虫、資源昆虫を代表するミツバチについて、養蜂がその高度な社会機構をどこまで活用し、コントロールしてきたかを生物学的に探り、最新の知見に基づいて人工調節技術の現状と今後の展望を述べる。

「ミツバチのはなし」

酒井哲夫編著 (1992) p. 94 技報堂出版：定価 1,545円, 頒価 1,300円, 240g [カタログ番号 SK100]

専門家の目を通して明らかにされたミツバチの神秘的な生態や生理、不思議な行動、人間との関係など最新の情報を紹介する興味深い31話。

「養蜂用語辞典」第9巻

(英語—仏語—日本語) IBRA 編。特別割引中, 頒価 1,000円, 450g p. 187 [カタログ番号 IB100]

ミツバチ科学研究や養蜂関係の仕事を通して、世界各国と交流するときに、特に文献類を読む際には必携の一冊。

The Asiatic Hive Bee: Apiculture, Biology and Role in Sustainable Development in Tropical and Sub-tropical Asia

Kevan, P. 編 (英文) (1995) p. 315 Enviroquest, Ontario: 頒価 3,500円, 700g [カタログ番号 K100]

1988年マレーシアで開催の「熱帯および亜熱帯アジアにおけるトウヨウミツバチ養蜂の振興に関する会議」論文集。トウヨウミツバチ養蜂を多面的にとらえ、アジアの養蜂振興におけるトウヨウミツバチ利用の意義を考える端緒となった。アピモンディア'99 コンテスト書籍部門で入賞。

ミツバチ科学研究施設 別刷資料

「ニホンミツバチ—生態とその飼育法—」

吉田忠晴著 (1998) p. 56. ミツバチ科学研究施設：頒価 1,000 円, 130 g [カタログ番号 Y100]

「ミツバチ科学」連載記事をまとめた。ニホンミツバチと養蜂の歴史, 野生群の生息場所, 伝統的飼養法と採蜜, ニホンミツバチの生態, 可動巣枠式巣箱による飼養法, セイヨウミツバチとの相違点, 東南アジアのトウヨウミツバチ飼育法など。これからニホンミツバチを飼おうという人必携の一冊。

「ミツバチ女王蜂の分化とローヤルゼリー」

学術研究所紀要別刷 松香光夫著, (1997) p. 12 玉川大学学術研究所：頒価 200 円 50 g [カタログ番号 M150]

103 編の引用文献は内外のローヤルゼリー関連資料を網羅している。I. 玉川大学での研究, II. 女王蜂と働き蜂, III. 女王蜂の決定とホルモン IV. RJ の分泌腺, V. RJ の成分, VI. 幼虫の人工飼育, VII. 女王蜂分化と RJ.

「ミツバチ科学」特集号

下記のミツバチ科学バックナンバーは 1 冊各 1000 円でお分けします (残部に制限あり)。

18 巻 3 号 岡田一次博士米寿記念号

「岡田一次博士業績目録」12 頁を掲載
[カタログ番号 H S 183]

19 巻 3 号 ミツバチの病気とダニ特集号

論文, 総説, 関連記事など 6 編を掲載
[カタログ番号 H S 193]

20 巻 2 号 プロポリス特集号—2

関連論文 4 編を掲載
[カタログ番号 H S 202]

20 巻 4 号 ミツバチ科学総目録

1~20 巻の項目, 著者索引を掲載
[カタログ番号 H S 204]

※なお, 19 巻 1 号ローヤルゼリー特集号, 19 巻 2 号プロポリス特集号は品切れとなりました。

ミツバチの絵はがきセット

5 種 (各 8 枚組 200 円) 玉川大学ミツバチ科学研究施設:

『ミツバチ カラー絵はがき』

[カタログ番号 PC01]

『世界のミツバチ切手』 [PC02]

『日本の養蜂』 [PC03]

『ミツバチ生態絵画集』 [PC04]

『ASIAN HONEYBEES』 [PC05]

Asian Bee Journal の購読募集

年間購読料: アジア養蜂研究協会会員は US \$30 99 年度会員には創刊号を見本誌として贈呈, ご請求下さい

お申込み方法

購入をご希望の方は別添の申込用紙の所定欄に
①カタログ番号, 書名と部数, ②送付先ご住所,
③ご氏名, ④電話/FAX 番号をご記入の上,
郵送, FAX または e-mail で下記までお知らせ下さい。

◎代金は後払いです。書籍送付時に同封する郵便振替用紙で, 下記アジア養蜂研究協会宛にお送り下さい。なお頒価に送料は含まれません。別途実費を申し受けます。振替用紙半券をもって領収証と代えさせていただきますが, 公用伝票 (納品請求書など) の必要な方はお申し付け下さい。

冊子小包郵便料金 (参考: 99 年 10 月現在)

重さ 150g 200 250 500 750 1kg 1.5 2.0 2.5 3.0
料金 180 210 240 310 340 380 450 520 590 660

〒194-8610

町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学ミツバチ科学研究施設内

アジア養蜂研究協会 (担当: 榎本ひとみ)

TEL/FAX: 042-739-8685

e-mail: HSRC@agr.tamagawa.ac.jp

郵便振替

口座番号: 00180-6-549964

口座名: アジア養蜂研究協会